

事業の概要

担当課：道路整備課

事業名	快適で安全な道づくり事業		事業主体	栃木県
事業箇所	主要地方道羽生田上蒲生線 関沢橋工区 <small>みぶ やすつか しもつけ しもこやま</small> 壬生町安塚～下野市下古山			
事業の目的、事業発案の経緯・背景 本路線は、壬生町羽生田地内の県道宇都宮亀和田栃木線から上三川町上蒲生地内の新4号国道を結ぶ幹線道路であり、本事業箇所は都市計画道路3・4・804号おもちゃのまち下古山線の一部を担う都市の骨格を形成する道路である。 また、沿線には、北関東自動車道壬生ICや三次救急医療機関である獨協医科大学病院、おもちゃ団地、石橋第二工業団地、みぶ羽生田産業団地等が立地しており、都市間の連携や地域の産業活動・日常生活を支える重要な道路である。 しかしながら、本事業箇所は前後区間が4車線であるにもかかわらず2車線であるため、交通渋滞が発生し、円滑な通行の支障となっている。さらに、沿線では北関東自動車道（仮称）下野スマートICの整備や六美町北部土地区画整理事業が進められていることから、今後交通需要の増加が見込まれ、更なる渋滞の悪化が予想される。 このため、本事業箇所の4車線化を進めることにより、北関東自動車道や新4号国道などの広域道路、産業団地、医療機関等へのアクセス強化を図るとともに、地域間連携の強化、渋滞緩和による地域の利便性向上を図るものである。				
事業内容 ・都市計画道路3・4・804号おもちゃのまち下古山線と整合した現道拡幅とする。（最終変更：平成28年3月） ・車線数は、計画交通量に基づき4車線とする。				
・総延長：700m ・計画交通量：19,200台/日 ・道路区分：第4種第1級 ・車線数：4車線 ・標準幅員：25.0m（車道3.25m×4、中央帯4.0m、自転車通行帯1.5m×2、歩道2.5m×2） ・主要構造物：橋梁（一級河川姿川）1橋（橋長L=60m）				
事業予定期間	令和4年度～令和8年度（予定） 【事業スケジュール（予定）】 用地調査：令和4年度 用地取得：令和4年度～令和6年度 工事実施：令和5年度～令和8年度	事業見込額及び内訳	総事業費：約18億円 事業費内訳 測量設計費：約1億円 用地補償費：約3億円 工事費：約14億円 財源内訳 国費：50% 県費：50%	
事業概要図 別紙記載				
県計画への位置付け ・「県土づくりプラン2021」：重点施策「成長を支える広域道路ネットワークの充実・強化」に位置づけられている。 ・「とちぎの道路・交通ビジョン2021」：「県内各拠点を結ぶ交通ネットワークの充実・強化」に位置づけられている。 ・「栃木県地域防災計画」：緊急輸送道路（第3次）に指定されている。 ・「宇都宮都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」：広域拠点地区の形成や周辺都市との移動や連携促進を図る「都市間連携軸」に位置づけられている。				
他計画・他事業との関連 ・「下野市都市計画マスタープラン」：地域幹線軸に位置づけられている。 ・北関東自動車道（仮称）下野スマートIC（下野市） H30～R4（予定） ・都市計画道路3・3・901号おもちゃのまち下古山線壬生町若草町工区（街路） H30～R5（予定） ・六美町北部土地区画整理事業（都計） H30～R10（予定）				

事業の評価

評 価 の 視 点	1 事業の必要性	<ul style="list-style-type: none"> 都市の骨格を担う道路として、平成28年3月に都市計画決定された道路である。 壬生町・下野市・上三川町における地域間連携・交流の強化を図るため、本路線の整備が必要である。 北関東自動車道の壬生ICや（仮称）下野スマートIC、新4号国道等へのアクセス強化が必要である。 災害時の救援活動や物資輸送に資する緊急輸送道路の整備が必要である。 本事業箇所の渋滞を緩和するため、4車線化が必要である。
	2 事業の適時性 (今事業に着手する理由等)	<ul style="list-style-type: none"> 本事業は、（仮称）下野スマートICや土地区画整理事業等による交通需要の増加に対応するための整備であり、他事業とあわせて早期に整備する必要がある。
	3 事業の適地性	<ul style="list-style-type: none"> ルートは現道と同位置であり、都市計画道路3・4・804号おもちゃのまち下古山線と整合する計画である。
	4 事業手法の適切性 (県が事業主体となる理由等)	<ul style="list-style-type: none"> 主要地方道羽生田上蒲生線であり、道路管理者として県が事業を実施する。
	5 事業により予想される効果及び影響	<p>○投資効果</p> <ul style="list-style-type: none"> 費用便益比 (B/C) 2.9 総便益 (B) 42.3億円 ※供用後50年間の効果を金銭に換算したもの 走行時間短縮(36.7億円)、走行経費減少(5.5億円)、交通事故減少(0.1億円) 総費用 (C) 14.7億円 ※建設費と供用後50年間の維持管理費を含む <p>○2車線から4車線に拡幅することで、交通容量が増加し渋滞が緩和される。</p> <p>○壬生町・下野市・上三川町を東西に連絡する道路を強化することで、地域間連携・交流の促進が図られる。</p> <p>○高速道路ICや産業団地へのアクセスを強化し、県域を越えた交流が促進することで、地域産業の活性化が図られる。</p> <p>○災害時の救援活動や物資輸送を支える緊急輸送道路としての機能が強化される。</p>
	6 事業コスト縮減等の可能性	<ul style="list-style-type: none"> 橋梁など主要構造物においては、新工法の採用を検討するなど、コスト縮減を図る。 再生材の利用や、建設発生土の公共工事間流用に努め、コスト縮減を図る。 既設側道橋の他箇所での再利用について検討し、コスト縮減を図る。
事業の対応方針(案)		本事業については、令和4年度より着手する。

①朝夕を中心に渋滞（関沢橋左岸）



②朝夕を中心に渋滞（鹿沼下野線交差点）

